



インタビューに答える知事
(読売新聞提供)

イヌ年を飛躍年に

いいひと いいこと つぎつぎ “とちぎ”

五カ年総合計画スタート

栃木県知事 福田富一

初 心

2006年早春号

平成18年 2月発行
年 2回刊
題字/福田富一 書

<発行所>

福田富一
暮らしと政治研究所

〒321-0102
宇都宮市江曾島町98番地
TEL 028 (645) 5100
fukuda21@agate.plala.or.jp

平成18年を迎えて

初春を御家族皆様おそろいで
お迎えになられ、心より
お慶び申し上げます。

年の始まりは、不思議な
もので迎えるたびに心が新
たになるものです。今年こ
そはと胸に刻まれた方も多
いことかと存じます。皆様
にとり大願成就の一年とな
りますよう念願申し上げます
とともに、本年も相変わ
りませず、宜しくお願い申
し上げます。

(パグ)が昨年10月25日に
妻に看取られて生涯を閉じ
ました。
ほぼ一年の間に食が細っ
て足腰が徐々に弱り、夏に
は家の中の段差解消の工夫



決意を色紙に記した知事
(読売新聞提供)

インであったことや、性格は
飼い主に似ること、動物は
愛情を尽くせば尽くすほど
応えてくれ

ることなど
をフーから
学んだもの
でした。「戊
年」をフー
と迎えられ
なかつたのは
本当に残念
でなりません。

県にとって大事な年

ところで本年は私にとつ
ても本県にとつても大変大
事な一年となります。何故
なら県政運営の指針でもあ
る5年間の総合計画が新た
にスタートする年だからで
あります。名称を「とちぎ
元気プラン」、キャッチフレ
ーズを「いいひと いいこ
と つぎつぎ とちぎ」と
決定し、基本姿勢を「県民
が主役」「県民協働」「地
域の自立」。重点テーマを「人
間力の向上」「次世代の育成」
「個性ある地域づくり」と
して様々な政策に取り組ん
で参ります。スタートダッ
シュよろしく、着々と成果
を上げられるよう精一杯頑
張って参りたいと存じます。
キャッチフレーズのごと
く、つぎつぎと幸福がおと
ずれる栃木となりますよう、
皆様の御支援、御協力をお
願い致します。

◆基本姿勢

「県民が主役」
「県民協働」
「地域の自立」

◆重点テーマ

「人間力の向上」
「次世代の育成」
「個性ある地域づくり」

愛犬フーから学ぶ

お守りとしても私達の生活
に深くかかわっております。
ところで我家では、10
年余にわたり家族同様に存
在価値のあった愛犬「フー」

をしたり、注射ポンプで流
動食を食べさせたりと、ま
さに夫婦で介護に取り組み
奇跡の回復を願ったが叶い
ませんでした。食べた物を
吐いたり、便が軟らかくな
った時は病気の始まりのサ

行き届く地域に

安全

知事は、12月2日起きた今市の女児殺害事件を受け、「極めて強い怒りを禁じ得ない。こうした悲しい事件を二度と繰り返さぬよう、地域、家庭、関係機関団体と連携しながら、全力で学校安全対策に取り組んでいく。警察、学校はもとより、PTA、地域の大人たちが力を合わせ、大人の責任として、それぞれの地域で児童生徒を見守る体制

を築きあげていくことが何よりも大切であると痛感している」と述べた。知事は、その具体策として①学校安全ボランティアの支援で、全小中学校にスクールガードを導入する②全中学校区に、警察官OBなどに不審者への対応などを学校安全ボランティアに助言してもらうスクールガードリーダーを設置する、などを示した。

子どもたちを守ろう！

全中学校区にスクールガードリーダー

《富一県政に対する14市長の評価》

市長名(市)	総合評価	公約の達成度	県と市町村の関係	県政発展の速度	今後の期待度
佐藤 栄一(宇都宮)	5	4	5	4	5
吉谷 宗夫(足利)	5	4	5	4	5
日向野義幸(栃木)	4	4	5	3	5
阿部 正英(佐野)	5	4	5	4	5
阿部 和夫(鹿沼)	5	4	5	4	5
真杉 瑞夫(日光)	4	4	5	4	5
斎藤 文夫(今市)	4	4	4	4	5
大久保寿夫(小山)	4	3	5	4	4
福田 武隼(真岡)	4	4	5	3	5
千保 一夫(矢板)	5	5	5	4	5
遠藤 忠(矢板)	5	4	5	4	5
栗川 仁(那須塩原)	5	5	5	4	5
秋元 喜平(さくら)	5	5	5	4	5
大谷 範雄(那須烏山)	4	4	5	4	5
平均	4.6	4.1	4.9	3.9	4.9

※5段階評価。5が最高、1が最低

福田県政一年を迎え、新聞各紙は大方好意的に評価し、否とする部分は、「本番2年目以降の課題」と報じている。

①公約42項目中9項目は「すぐ取り組む」と「公約達成度」に高い評価した。

そのうち新庁舎見直し、足利銀行の受け皿問題につきは提言する、など8項目はすでに達成している。

②下野新聞、読売新聞宇

『公約達成度』に高い評価

都宮支局が、県内市町村長を対象に「福田県政に対する評価」のアンケートを行った。

下野新聞はその結果を「市町村長からの評判も上々だ。知事に対する採点は10点満点で平均8.6点。『市町村重視』『対話と協調』の姿勢で公約実現に努める姿を評価する意見が並んだ」と伝えた。

ここでは14市長を対象とした読売新聞の結果を掲載した。(上表)

「県政発展」の速度にやささか不満と評する向きもあり、これに対し知事は、県庁内、県内の事情と状況を的確に把握する期間も必要であったとし、2年目を期し、より迅速な展開に向け努力する旨を言明している。

乳牛の全国祭典開く

とちぎファームフェスタ2005

壬生町羽生田の特設会場で11月3日から4日間、日本一の乳牛を決める5年に一度の祭典「栃木ファームフェスタ2005」が開かれた。

44都道府県から、ホルスタイン種、ジャージー種合わせて三百六十頭が出品され、過去最大の出品頭数となった「乳牛の国内オリンピック」。4日間合わせた入場者総数は六十八万九千人と、当初の予想を大きく上回った。

最終日の6日、県実行委員会会長の知事は「今回の開催を契機に酪農に携わる関係者の皆様が、夢と希望を持って酪農経営ができるよう祈念している」と挨拶した。

県の参画を確約

足銀受け皿問題

知事は11月21日、首相官邸を訪れ、要望書を提出したの続き、24日には、与謝野金融相や谷垣財務相を訪ね、足利銀行の受け皿について、①中

小零細企業の再生を支援する地域の中核的金融機関としての機能を維持する②選定過程で県が参画する③出来るだけ早期に移行する、などを要望した。

与謝野金融相は「金融

庁と相談しながら県民の要望をどう実現していくか考えたい」と述べた。

知事は「地元の意向を配慮してもらえらる確約をもらった。中小零細企業再生の道筋をつけるために受け皿選びは最大のポイント。今後譲れない線はアピールしていきたい」と話した。

JR雀宮駅東地区に

宇都宮工高移転問題

県は06年1月16日、宇都宮工業高の移転先として、JR雀宮駅東地区を選定する方針を固めた。

県教育委員会臨時会が同日開かれ、①通学の利便性と安全性②隣接地に宇都宮市が図書館を建設する予定で、優れた学習環

と説明した。

知事は昨年末の記者会見で、移転先について①通学が便利②全体の費用③11年度開校を目指し、時間的に間に合わせる、などの判断基準を示し、「県教委の方に任せたい」と述べていた。



前夜祭で鏡開きをする知事

境③土地の形状④地元の協力⑤経済性、などの面から、「06年度中に用地取得の買収のめどがつくこと」を前提に、移転先を同地区と決めたことを受けたもので「全県下から通える通学の利便性が、最大のポイントだ」(幹部)

このページは、下野新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、東京新聞、日本経済新聞、の記事を抜粋させていただきました。

温かい目の

安心

第三日曜日の『家庭の日』条例化

「人間力」向上に重点を置く知事は、多発する幼児虐待や殺害事件をみるにつけ、家庭の教育力活性化が不可欠と判断。新年度から、家庭の意義を考える県民運動を積極的に展開するため、第三日曜日を『家庭の日』として条例で定める。知事は「人の痛みや善悪の事」

分かる人を育てる上で重要な役割を果たす家庭の力を高める一助にしたい」と強調している。

「家庭の日」には県の会合などを見合わせるほか、県有施設の親子優待制度導入などを通じて家族のだんらんを促し、家庭の教育力を高める契機にする。



修学旅行・相互訪問を

中国・浙江省などを訪問

習近平書記と知事（杭州市内）

知事は10月28日から11月1日まで中国の上海市や、県が友好提携を結んでいる浙江省都・杭州市などを訪問。初日は上海で中国華東地域県企業人會と意見交換、2日目は県から上海に進出している企業を視察。帰国前日の31日は「県青年の船」のメンバーと杭州市で懇談、午後には、杭州市内で中国共産党浙江省委員會の習近平書記、呂祖善浙江省長と対談した。

呂省長は「日中両国の友好進展のため、浙江省と栃木県の友好協力関係の発展が大切だ」と述べた。知事は「友好のきずなを一層、緊密なものにしていきたい」と応じ、「次世代を担う青少年の交流を促進するため、修学旅行生の相互訪問ができるような環境を整備していきたい」と提案をした。

習近平書記との会談はこれに先立ち、急ぎよ実現した。事実上の省のトップである書記は、知事の就任後の早い時期における訪中を歓迎。「両県省の友好交流・協力の新しい一ページを作り上げていきたい」と述べた。

バウチャー事業を継続

若者就業支援策

知事は、フリーターやニートの就業支援策として「若年者職業訓練バウチャーモデル事業」を新年度も実施する考えを表明。昨年末までに、71人に利用券を交付、3人の就職が決まった。相談窓口の「とちぎ就職支援センター」は4月から、平日の夜間と土曜日にも開く方向で検討している。

自治医大が支援

芳賀日赤の医師不足

日赤本社の山田史事業局長が11月29日、日赤県支部長である知事を訪ね、自治医大の協力を得て内科常勤医を新年度から8人体制とすることや、産婦人科常勤医を4人増やし周産期医療に力を入れる方針を報告。これを受けて知事は同日午後、芳賀日赤病院を訪れ、現場の医師たちに、「患者本位の医療に向け、一致団結してこの窮状を乗り越えてほしい」と激励。

新交通システム研究会発足

LRT導入問題

LRT（次世代型路面電車）の実現に向けて、国や県、市町の議員らでつくる「新交通システム

とちぎ元氣フォーラム

小山市で開催

県民と知事が県の施策や課題などを話し合う今年度最後の『とちぎ元氣



栃木県キャッチフレーズを披露する知事

- 東京・大田市場で「とちおとめ」を勧める知事
- ◇10月5日 テレビで観光PR／首都圏や福島県の地域テレビに出演。県内の観光地の魅力を紹介。
 - ◇10月11日 都内でとちぎ和牛をPR。
 - ◇10月15日 とちぎ元氣フォーラム in 岩舟
 - ◇10月20日 都内で、県内に進出の企業招き初の懇談会／県の良さをアピール
 - ◇10月22日 岡山国体開幕／団長を務める
 - ◇11月4日 とちぎ特使と懇談会／観光政策などで意見交換。
 - ◇11月21日 足銀受け皿問題／小泉首相あてに要望書を提出「意見言うべき時期」
 - ◇11月26日 とちぎ元氣フォーラム in 矢板
 - ◇12月15日 今市署を訪れ捜査員ら激励／「1日も早い犯人逮捕を！」
 - ◇12月20日 東京・大田市場で県産イチゴ「とちおとめ」PR。「一粒食べれば元氣百倍」（上記写真真）
 - ◇12月23日 皇居／天皇誕生日宴会の儀に夫妻出席
 - ◇1月1日 皇居／新年祝賀の儀に夫妻出席
 - ◇1月4日 幹部職員を前に年頭訓示／「スピード感ある県政運営を」
 - ◇1月20日 壬生町の授産施設「むつみの森」などを視察／2月28日に滋賀県で開かれるシンポジウムで県内の取り組みを発表する予定。

東奔西走の日々

後援会のページ

ピソードを交えて冒頭に披露。続いて①新生日光市誕生により、ラムサール条約登録達成。さきの世界遺産登録が国立公園に加わり三

新たに加わった知事の任務として、天皇皇后両陛下をはじめとする皇室との触れ合いの機会が増えたことを、折々のエ

11月28日、『知事に就任して一年』と題して知事が講演、続いて質疑応答が行なわれた。

盛大に「知事と語る会」就任日を記念して

拍子揃った。②農業の躍進では、梨のニッコリ、苺、葡萄のタイ、台湾など海外進出が軌道に乗りつつある。



奥日光の湿原に記念碑

ラムサール条約登録



知事が揮ごうした記念碑

光市湯元の湯の湖畔で行われた。

記念碑は、市内で採取された安山岩製で、横2・5メートル、高さ1・5メートル、重さ約10ト。知事が「奥日光の湿原」の文字を揮毫した。

午後からの式典では環境省の黒田官房審議官から、知事と真杉市長に登録認定証が伝達された。知事は「今回の登録は日光市、本県のイメージアップにつながるものと期待している。自然触れ合い活動のフィールドとしてもより一層の活用を図りたい」と語った。

志賀さんが講演

『明治の女性たち』と題して

恒例となった文化講演会は、昨年4月に後援会事務所に就任した志賀かう子さんの紹介をかね、『明治の女性たち』と題し、ホテル東日本で開催、女性を中心に予想を超える多数のご参加をいただいた。

◆講演要旨

作家司馬遼太郎は、明治を、清廉透明な公感覚と道徳的緊張をもった「国家」だとする。



一般庶民層においても同様、断じてあるまじきことを「否」とする信念に徹していた。明治はまた、高邁な使命感と理想をもつ女性が新局面を拓いた時代でもあった。女子高等教育の先駆者津田梅子、女性医師の道を創った吉岡弥生、初の女性新聞記者となり、のちに官にとらわれぬ教育を推進した羽仁もと子等々。身近かな存在として、宇都宮女医一号となった志賀の祖母の例を挙げ、職業にあつては男性医師と対等に所見を論じ、だが私的場面では、男女の違いをわきまえるべきことを具体的に語り、指導した、など。

『福田家の茶の間』

昨年の8月、夫と男体山へ登った。『何歳まで登れるか挑戦してみよう!』と始めてから4年目である。男体山に初めて2人で登ったのは昭和56年、婚約時代である。それから結婚して3人の子供に恵まれたが、長男が小3の時、国語の成績が悪く自信をなくして、いづれをみて、『頑張れば出来るよ!』との思いを込めて、家族5人で男体山に登った。5歳の娘も一人で登りきり、家族全員で頂上に立った時は感動した。それから、卒業の時、受験の時と、



節目節目に家族で登ってきたが、その子供達もそれぞれ東京に旅立って、また2人だけの生活となった。この先2人で何歳まで登れるだろうか? 夫の健康も考え、毎日一緒に歩くようにしている。ただし、お酒の量があまり遅くない時(笑)だけである。

夫からもお伝えしたが、我が家のフー(パグ)が亡くなった。子供達と一緒に成長し、いつも私のそばにいたフーがである。意識がなくなる前、ちゃんと私に別れの挨拶をして逝ったのだ。忙しい夫もフーの介護を惜しまず、嬉しかった。その夫の優しさに、私は救われた。◎

編集後記

寒い冬でした。皆様

お障りなくお読みでしょうか。『初心』復刊号の知事ご挨拶に「朝の来ない夜はない」とありました。苦しみの後にも必ず朝がある、の意ではありますが、気がつけば、吐く息は白いのに夜明けがずい分早くなりました。

立春も間近です。ウグイスの初音もすぐそこです。よい一年となりますように。どうぞお体お大切に、と念じ上げます。

◇福田富一後援会事務所

宇都宮市江曾島町98番地
電話 028(645)5100
FAX 028(645)1124

平成18年度スケジュール予定

ハイキング(ハイキング愛好会主催) * 5月予定
日時 5月3日(日)午前11時予定
場所 今宮第一公園
講演会(ゆりの会主催) * 9月予定
日時 9月18日(日)午前11時予定
知事と語る会(ゆりの会主催) * 11月予定
日時 11月18日(日)午前11時予定
※詳細につきましては、事務所にお問合せ下さい。

